

〔優秀賞〕

◇ 題名 男女の差 ◇

旗川小学校 6年 亀山 璃夢

最近よく、SDGsという言葉を目にします。私は5年生のときに、総合的な学習の時間に、SDGsについて調べました。そのときは、主に環境保全について調べましたが、そのSDGsの17の目標の中に、「ジェンダー平等を実現しよう」というのがあったことを覚えています。私は、たびたびテレビやネットニュース、新聞などに男女平等に関する報道が上がっているのを見て、興味をもち日本の現状について調べてみることにしました。

日本は昔、「男性は仕事、女性は家事」という価値観が深く根付いていたそうです。今でも、そんな価値観をもった人たちが一部いるのも事実です。もちろん、そう思うことは個人の自由ですが、それを他人に強要して、相手をその固定観念の糸にしばり付けるのは、よくないと思いますし、その糸にしばり付けられ強要された人は、きゅうくつな気持ちになると思います。

育児についても同じようなことが言えます。例えば、「育児は、奥さんが中心にやるのが当然」という価値観をもっている人からすると、夫が平日の昼間に子どもと公園で遊んでいた、スーパーで買い物をしていたりすると、「ちゃんと働いていない」とか「お母さんが子どもを育てた方がいい」などの、かげ口をたたかれたりするそうです。また、女性は家事や育児をやって当然でも、男性が家事や育児をすると、「イクメン」などと呼ばれしょう賛されます。私は、なぜ女性は大変な家事や育児を当たり前のようにこなしているのに、

男性が同じことをすると、評価が上がるのだろうと疑問に思いました。

ジェンダー平等の実現に向けて、日本には他にも、多くの課題があります。例えば、男性の育休取得についてです。ここ数年は、育休の取得率は少しずつ上がっていますが、それでも世界に比べると、とても低い数値となっています。日本の育児休業制度は、他の国と比べても、大きな違いは無いそうです。では、なぜ日本の男性の育休の取得率は低いのでしょうか。主な原因としては、「自分の代わりとなる人がいない」や「休みにくい雰囲気がある」などが挙げられます。本当は育休を取りたいのに、取れないというのが現状としてあるようです。

日本は世界に比べて、まだまだ男女の差が大きく、解決していかなくてはいけない問題点がたくさんあります。私たちが大人になるまでに、このような問題点が少しでも解決できるようにのるとともに、今、私にできることをしていきたいと思います。今回、日本の現状について調べることを通して、ジェンダー平等について関心を高めることができました。このことを家の人や、学校の友達に広めることで、多くの人に興味をもってもらい、考えるきっかけになればいいなと思います。